

# 新 アジアの風

県立大地域経済研究所報告

8月にラオスの首都ビエンチャンを訪れた。タイ・バンコクから飛行機で約1時間、強い日差しの中で降り立ったワットタイ空港は、東南アジア各国で次々と大型化されている国際空港に比べると、かなり小ぶりである。海に面していない内陸国の

春日 尚雄教授

ラオスは人口700万人ほどで、ブルネイを除けば東南アジア諸国連合(ASEAN)10カ国の中で最も小さい。ASEANではミャンマー、カンボジアと並んで所得水準が低く、域内の経済格差是正の対象国となってきた。自国通貨のキップはあるが、米ドル、タイ・バーツも市中で使うことが可能だ。極端な話、レストランでこの3通貨を交えて支払うこともできる。日本人観光客、ビジネスマンは少なく、外国人は白人のバックパッカーもしくは国際援助関係者と思われる人たちが目立つ。ビエンチャンは車が増えてきているとはいえ、同じ後発途上国のミャンマー・ヤンゴンやカンボジア・プノンペン

## ASEANの小国・ラオスは今(上)

### 目立つ中国经济進出



写真上は、ASEAN首脳会議が開催された会場。写真下は、ビエンチャンの船着き場からタイ・ノンカイを望む(ともに8月、ビエンチャンで筆者撮影)



で急速に渋滞・混雑が進んでいるのに比べると、明らかに車は少ない。道路整備は国際援助もあり、市内、近郊ともに思いの外、良好である。ASEAN首脳会議はタイで面しており、対岸はタイである。この辺のメコン川の川幅は

かなり広い。タイとの交通は、1994年にオーストラリアの援助もあって完成した「メコン第1国際友好橋」により、道路・鉄道がつながっている。また一般住民は友好橋近くから渡し船を利用しており、ビザなしでタイ(ノンカイ)に入国できることから、少額貿易はちらちらが主となっているようだ。ASEAN議長国であり、9月にASEAN首脳会議がビエンチャンで開催された。続けて開かれた東アジアサミットなどには、日本から安倍晋三首相も出席した。ASEAN首脳会議の議長声明では、懸案となっていた南シナ海問題について、中国の主権主張を否定した7月の仲裁裁判所の判断には触れられなかった。ラオス、カンボジアが反対したためといわれている。これを裏付けるようにラオスにおける中国の経済進出は著しく、ビエンチャン市内でも中国の簡体字で書かれた店の看板が目立ち、中国製品の流通が以前に比べて圧倒的に増えている。

これといった産業の乏しいラオスにとって中国による投資、援助、貿易といったパッケージは非常に魅力的であると思われる。ASEANの結果という問題が提起されている中で、ラオスの選択がどのようになっているかが注視される。今回はラオスでの日系製造業の操業やタイ・プラスワンの動向によるメコン地域の日系企業のサプライチェーンについて触れてみたい。